

伊波小通信2



発行：石嶺 聡 NO.2 令和元年5月22日(水)

校長のねがい：「心の美しい子がいる学校にしたい！」

校長先生のねがいは、「心の美しい子がいる学校にしたい」ことです。「心の美しい子」ってどういふ子のことか？をいふのでしようか。たとえるならば、このようなことです。

休み時間に廊下を歩いていっていると、トイレの前でしゃべんでスリッパをそろえている子がいました。小学生の〇〇さんです。校長先生は思わず駆け寄って「〇〇さん、えらいね」と声をかけました。でも、実はもっとうれしいことがあったのです。それは、〇〇さんに「どうしてスリッパをそろえているの」とたずねると、「次にトイレを使う子がスリッパをはきやすいように」と答えてくれました。

「トイレのスリッパをそろえる」という行為は、すばらしいことです。でも、「スリッパをそろえようとする気持ち」はいろいろあります。心の中をのぞいてみると

1. 「先生やみんなにほめてほしいから」という気持ち
こんな気持ちがあると、誰かが見ていてくれるときには、スリッパをそろえるけど、誰も見ていないときには、スリッパをそろえられなくなります。
2. 「自分で使ったスリッパをそろえないと、先生にしかられるから」という気持ち
こんな気持ちがあると、しかられたり罰(ばつ)があったりしないでできなくなります。それに、誰かに注意されるかもしれない、と周りを見ながらびくびくスリッパをそろえていても、ちょっと気持ちよくないですね。
3. 「他の子もスリッパをそろえているから」という気持ち
こんな気持ちがあると、たとえば、歯医者に行って、玄関でみんなの靴がバラバラだったら、自分も靴をそろえることができなくなってしまいます。

本当の心の美しい子は、〇〇さんのように、ほめてほしいから、しかられるから、みんながそろえているからということではなく、「みんなの幸せのために」という気持ちをもっていきます。伊波小学校の皆さんも、〇〇さんのように、心の美しい子になってほしいと思います。そうすれば、この学校は、もっと楽しくて気持ちのよい学校になると思います。みなさん、是非、頑張ってくださいませよう

